

樹木管理の目的

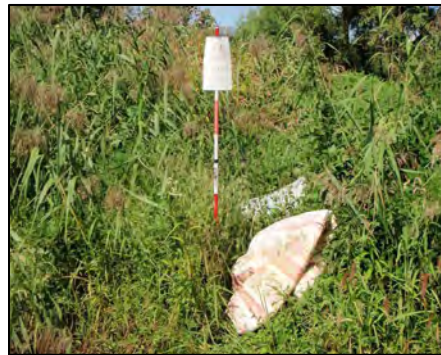
河道内の樹木群は、生態系の保全、良好な景観形成などの機能を有している

その反面

- ①治水上の支障となる（洪水時における水位上昇や堤防沿いでの高速流の発生等）
- ②不法投棄を誘発する原因となる
- ③重要構造物（護岸、高水敷等）の施設監視の支障となる
- ④洪水後、ゴミが溜まる原因となる



①治水上の支障



②不法投棄

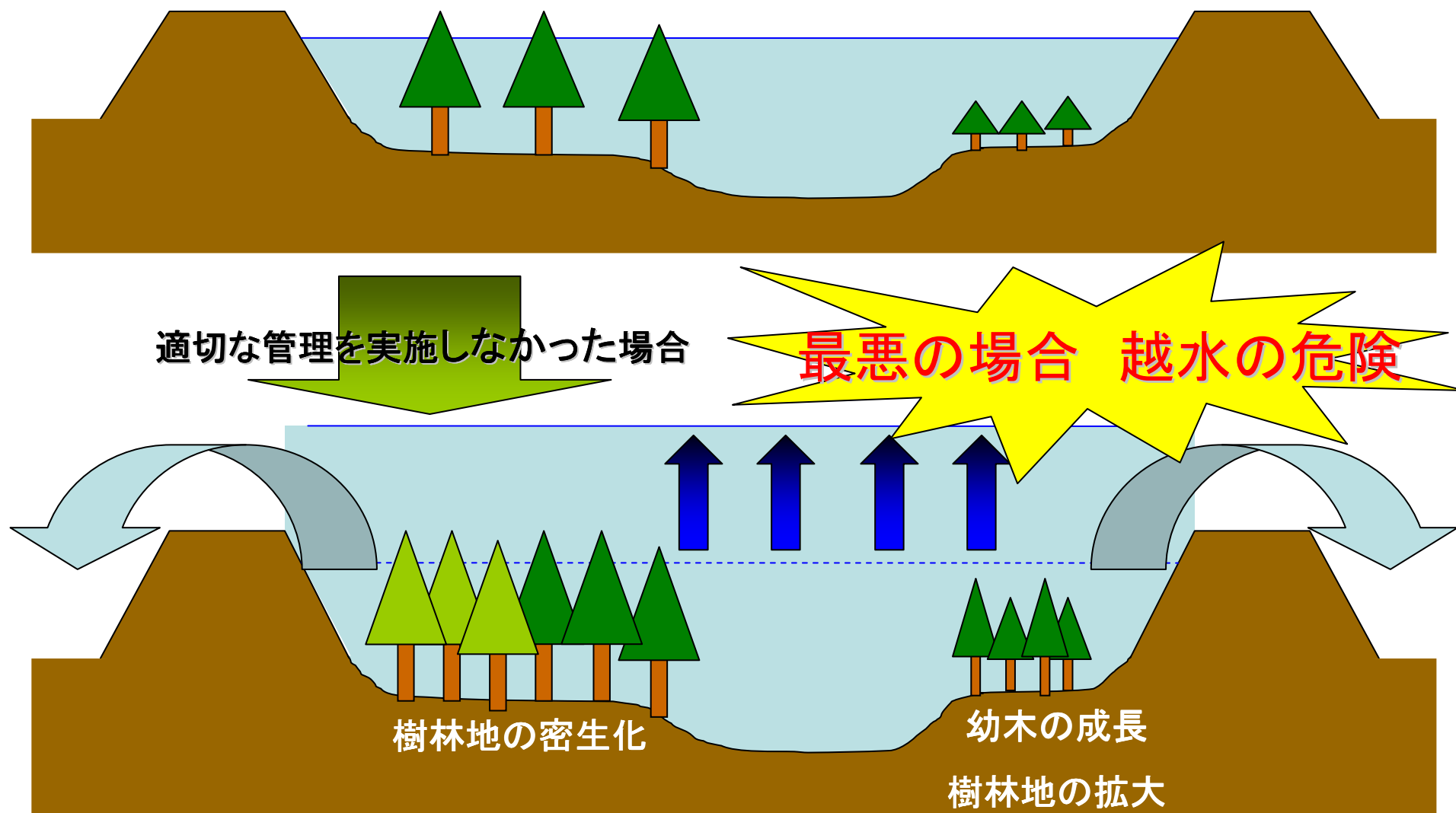


③重要構造物



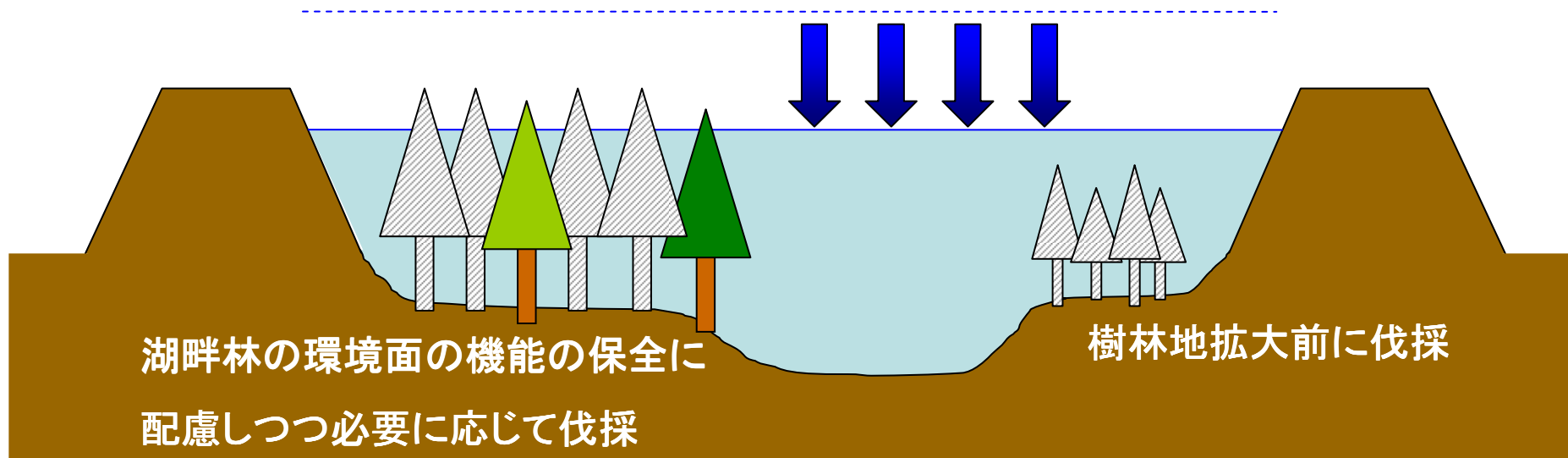
④出水後のゴミ

・治水上の支障となる



- ・樹林地は拡大・密生化し、洪水時の水位上昇を引き起こす
- ・樹林地への土砂蓄積により、水際環境が変化

適切な樹木管理を実施した場合



- ・湖畔林などの保全に配慮しつつ必要に応じて樹木管理を実施し、治水・環境面の機能を適正に維持

**治水・環境面の機能を
適正に維持**

環境に配慮した樹木管理

- 淵際の湖畔林など生物にとって価値の高い樹木については極力残します。
- 砂州に繁茂している樹木群や外来種は積極的に伐採します。
- 鳥類・哺乳類等の繁殖期を避けて伐採します。
- 群落機能が維持できるように配慮します。